

学生チャレンジプロジェクト報告

本プロジェクトも4年目となりました。今年もアイデア溢れる8プロジェクトが選ばれました。メンバー学生は、自ら立てた計画を達成するため、約半年間意欲的に活動してきました。次回も多くの学生のチャレンジを期待しています。

平成26年度学生チャレンジプロジェクト採択一覧

No.	プロジェクト名	部門	代表学生
1	WRO2014オープンカテゴリー	コンテスト部門	情報工学科3年 真弓 凌輔
2	Project STEP ～赤道儀でtelescopeをエエものにするプロジェクト～	ものづくり部門	情報工学科3年 築瀬 恵太
3	空飛ぶVR～バーチャルリアリティによるリアルタイム疑似飛行体験～	ものづくり部門	電子制御工学科5年 揉井 雅紀
4	ヨウ素と地球～高校から始める地球化学研究	コンテスト部門	物質化学工学科2年 西岡 心
5	プロジェクションマッピングによる学科PRコンテンツ作成	ものづくり部門	情報工学科5年 岡田 知佳
6	E科×M科コラボ電気バギー作り～エンジンからモーターへ～	ものづくり部門	機械工学科4年 岡本 達樹
7	I AM ROBOT	ものづくり部門	電子制御工学科5年 森本 翔太
8	高専の平均(コウヘイ)君作成プロジェクト	ものづくり部門	電子情報工学専攻2年 片山 七海



空飛ぶVR～バーチャルリアリティによるリアルタイム疑似飛行体験～

電子制御工学科4年 揉井 雅紀

「空飛ぶVR～バーチャルリアリティによるリアルタイム疑似飛行体験～」は空を飛びたい人々のためのアプリケーションです。昨今流行りのマルチコプター(プロペラが複数あるヘリコプター)、ただ空撮するだけじゃ物足りないですよ。そこで、ヘッドマウントディスプレイとマルチコプター上のカメラを連動させることを考えました。これによってリアルタイムに空からの映像を視界にリンクさせることができます。さらに頭の動作をモーショントラッキングし、マルチコプターにフィードバックすることでカメラを上下左右に首振りさせ、よりリアリティの高い飛行体験ができるようになりました。

電気バギー作りを通して私が高専生に伝えたいこと

プロジェクト名 E科×M科コラボ電気バギー作り～エンジンからモーターへ～

機械工学科4年 岡本 達樹

何か学んでみたい知識や経験があるのなら、チャレンジプロジェクトに参加するべきだと思います。なぜなら電気バギーの製作を通して私は、プロジェクト内容の企画、設計図の作成、材料加工、組み立ての経験やモータについて知識を学べたからです。また、予算配分や時間管理のような企業で働く上で必要となる能力も経験することができました。これらの経験は普通の授業から学べないので貴重なものとなりました。このように私は専門知識だけでなく、企業側から必要とされる技術者になる上で大切なことを本プロジェクトから教えてもらいました。学生の意欲と熱意があればさらに多くのことも学べるはずなので、チャレンジプロジェクトへの参加を強くお勧めします。



産学交流室より

産学交流室長 早川 恭弘

奈良高専産学交流室は、産学交流室長、副室長(6名)、コーディネータ(2名)、技術長、専門職員(研究協力担当)、事務補佐員から構成されています。

奈良高専の産学交流室は、近畿地区国公立7高専の中で産学交流に関する中心的な立場にあります。特に、国立4高専における拠点校として、積極的な活動を行っています。活動の一例としては、技術相談への対応に関して、本校で対応できない相談を他高専に照会するなど、近畿地区全体で取り組んでいます。また、外部資金獲得のための様々な情報を発信し、先生方に対しても個別にアナウンスしています。さらに、多くの展示会に出展することで、高専の宣伝を積極的に行っています。

学外の活動拠点としては、クリエイションコア東大阪内にある

エゾンオフィス以外に、奈良県、奈良経済産業協会及び本校で設立した「なら産学官クリエイトセンター」が「なら産業活性化プラザ」内に設置されています。本センターは、平成22年度にJST(科学技術振興機構)公募「地域産学官共同研究拠点整備事業」に応募し、全国高専で唯一採択されたものです。当センターは、県内のものづくり産業の活性化を目指しており、大学の工学部が存在しない奈良県にとって、奈良高専は地域の中小企業のものづくり支援の要となっています。

今後も引き続き産学官連携を推進していきますので、皆様方のご理解ご支援を宜しくお願い致します。



奈良高専技術フォーラム&研究室見学会2014



MOBIO-Cafe Meeting 2014

